

平成 31 年 3 月 1 日に思う

2 月最後の日曜日、心地よい時間を過ごしました。

森と水の源流館（宮の平）で開かれた松谷文美先生（東吉野村在住）の「冬の森コンサート」に参加してのことです。同先生は、川上村のコーラスグループ「華音」の指導をしていただくなど本村にご縁が深く、その歌声は超満員となった同館のシアタールームをあたたく包みこみ、優しくも力強さを感じさせる納得のものでした。私にはそれが水源地の森の“声”あるいは“メッセージ”であるように聞こえました。会場には、本村の「華音」の皆さんはもちろん、日ごろより馴染みのある東吉野村のコーラスグループ「オリーブ&ポパイ」の皆さんも駆けつけるなど、先生の魅力による「人のつながり」もひしひしと伝わってきました。

またトークでも、やわらかな口調ながら、「未知へのチャレンジ」の大切さを噛みしめるように語ってくれました。

森と水の源流館は 17 年前、水源地の村の象徴として、水源地の森へいざなう役割を担う目的で誕生しました。昨今、同館の尾上局長は、「源流からの発信」に力を入れて取り組んでいます。下流への出張源流教室を展開するなど、松谷先生にもお手伝いをいただきながら、源流の価値を“語り”と“歌声”で次代を担う子どもたちに届けています。開館当初は、源流館でのこのようなコンサートを予想した方がいたでしょうか。これはまさに、新たな価値を求める「未知へのチャレンジ」です。

これからも進化しつづける森と水の源流館へ、引きつづきご声援をよろしく願います。